

# 甲斐市立双葉西小学校 自己評価書

令和6年2月8日(木) 作成

校長 窪田 正幸

記述者 教頭 小田切真喜

学校教育目標 「ともに学び ともに育つ」

## 【めざす子ども像】

- ・知 ○よく考え判断できる子ども
- ・徳 ○思いやりと感動する心のある子ども
- ・体 ○じょうぶでがんばる子ども

## 【めざす学校像】

- 豊かで確かな学力をつける「学びがある」学校
- その子のよさを認め、伸ばす「仲間がいる」学校
- 地域と互惠関係にある「地域とともにある」学校
- 子どもの命を守る「安心・安全である」学校

## 【めざす教師像】

- ともに学び合い、互いに磨き合い、よりよい授業を創る教師
- 目標に向かって創意工夫し、協働する教師
- 子どもの心に寄り添い、支え合う学級づくりをする教師
- 保護者や地域との信頼関係を築く教師
- よさを認める温かさと高い志を求める厳しさを持つ教師

学校経営方針

基本：教師力の向上・信頼によるチーム力の発揮・創意ある協働

- (1) 学校教育目標「ともに学び ともに育つ」を常に意識し、めざす「子ども像」「学校像」「教師像」の実現に向け、積極的に教育実践に取り組む。
- (2) PDCA サイクルを生かし、より質の高い教育活動を構築する。
- (3) 意欲的に研修に励み、専門職としての資質・能力の向上に努める。
- (4) 信頼される学校づくりの実現に努める。

# 令和5年度 双葉西小学校のグランドデザイン

## 《学校教育目標》

ともに学び ともに育つ

## 《めざす教師像》

- ともに学び合い、互いに磨き合い、よりよい授業を創る教師
- 目標に向かって創意工夫し、協働する教師
- 子どもの心に寄り添い、支え合う学級づくりをする教師
- 保護者や地域との信頼関係を築く教師
- よさを認める温かさ高い志を求め徹しさをもち教師

## 《めざす学校像》

- 豊かで確かな学力をつける[学びがある]学校
- その子のよさを認め、伸ばす[仲間がいる]学校
- 地域と互恵関係にある[地域とともにある]学校
- 子どもの命を守る[安心・安全である]学校

## 《めざす子ども像》

よく考え 思いやりと じょうぶで  
判断できる子ども（知） 感動する心のある子ども（徳） がんばる子ども（体）

## 《今年度の指導重点》

<p><b>1 確かな学力の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「主体的・対話的で深い学び」の実現 学習者を主体とした授業づくりを行い、自ら課題を見つけ、自ら解決に向かう力を高める。</li> <li>○「地域とつむぐ授業」の充実 保護者・地域との連携により、多様な他者と協働しながらより質の高い学びを生み出す授業づくりを行う。</li> <li>○ICT 活用 一人1台端末等の ICT 環境を最大限に生かした授業の充実を図る。</li> </ul>	<p><b>2 豊かな心の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人権教育の推進 自他を大切にできる人権感覚を、教育活動全体を通じて涵養する。</li> <li>○道徳教育の推進 道徳の授業地域公開の実施など、児童の実態や地域の実情を踏まえた道徳教育推進運動を進める。</li> <li>○いじめ・不登校への対応 関係機関と連携した支援体制の充実・職員の研修機会の確保・SOS の出し方教育に取り組む。</li> </ul>
<p><b>3 健やかな体の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体力の向上 人間関係づくり等を踏まえた中で、既存の運動機会を、体力の向上につながるよう工夫する。</li> <li>○健康教育の充実 感染症への正しい理解に基づき、自ら適切な行動ができるよう、具体的・実践的な指導を継続して行う。</li> </ul>	<p><b>4 地域や世界で活躍する人材の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○伝統や文化等に関する教育の推進 地域との連携などにより、郷土学習を推進する。</li> <li>○外国語教育の充実 「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の5領域の言語活動や、パフォーマンス評価を計画的に実施する。</li> </ul>
<p><b>5 特別支援教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○専門性の向上 特別支援教育に関する理解の促進と専門性の向上のための研修を位置付け、実施する。</li> <li>○教育内容の充実 多様性を認め合える集団づくりのための交流及び共同学習において、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育む。</li> </ul>	<p><b>6 安全・安心な学校づくりの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○安全教育の推進 学校安全計画や危機管理マニュアルの改善を行うとともに、安全教育教材を活用した実践に取り組み、児童が自分で自分の身を守る能力を育む。</li> <li>○学校安全の推進 防災行動計画に基づいた防災体制の推進と、保護者・地域との連携強化や連絡体制の整備を進める。</li> </ul>

学級経営の充実 【学習活動づくり 人間関係づくり 環境づくり】

コミュニティ・スクール（地域とともにある学校） 『双葉で育ち 双葉を育てる人づくり』

## 1 全体評価

本校の学校評価は次の全7観点で行っている。

- I 学校教育目標に関して・学校経営について
- II 学校運営について
- III 学習指導について
- IV 生徒指導について
- V 地域との連携について
- VI 学校の特色について
- VII 創甲斐教育について

また、教職員自己評価及び保護者アンケートのそれぞれの設問は、右のような5段階評価で、小学生用アンケートにおいては4段階評価で行っている。教員自己評価において、「E：わからない」については担当外の場合のみつけている。また、年1回の実施のため、昨年度の結果を踏まえながら検討している。

### 5段階評価〈教職員・保護者〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思わない（黄）
- D：そう思わない（緑）
- E：わからない（紫）

### 4段階評価〈小学生〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：あまりそう思わない（黄）
- D：そう思わない（緑）

### （1）教員自己評価について

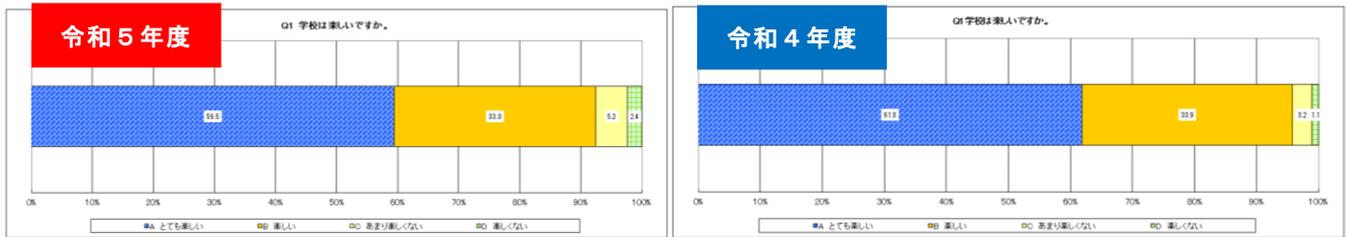
本校では学校長を中心に、学校教育目標「ともに学び ともに育つ」の具現化を目指し、全職員で協働し、研鑽を積んできている。校内研究会では、研究主題を『豊かな感性と確かな学力をもつ子どもの育成～「地域とつむぐ授業」を中心とした学習活動を通して～』と設定し、コミュニティスクールの仕組みを生かした効果的な指導法について全職員で共通理解を図りながら研究に取り組み、成果をあげることができた。特に今年度は甲斐市教育委員会指定「コミュニティスクール推進事業校」の3年目にあたり、公開授業研究会も開催し、県教育委員会や甲斐市教育委員会をはじめ、各方面より大変よい評価をいただいた。

今年度の教員自己評価も、37の設問のうち35の設問で「A+Bの肯定的評価」が95%以上となっており、教職員が子供たちのために誠実に職務に専念している姿勢が表れている。「学習指導」や「生徒指導」等、児童の指導に関わる項目では、ほとんどの設問で「A」評価となっており、教職員の日々の研鑽の成果が現れ、自信を持ちながら児童の指導にあたっている様子が伺える。一方で「肯定的評価」の中でも「B」評価の割合が増えており、特に「学校経営」や「学校運営」、「地域との連携」等についての項目で、その傾向が大きい。若手教職員が増えている現状もあり、より広い視野に立って学校教育に携わっていけるよう、指導していく必要性を感じる。

### （2）小学生用アンケートについて

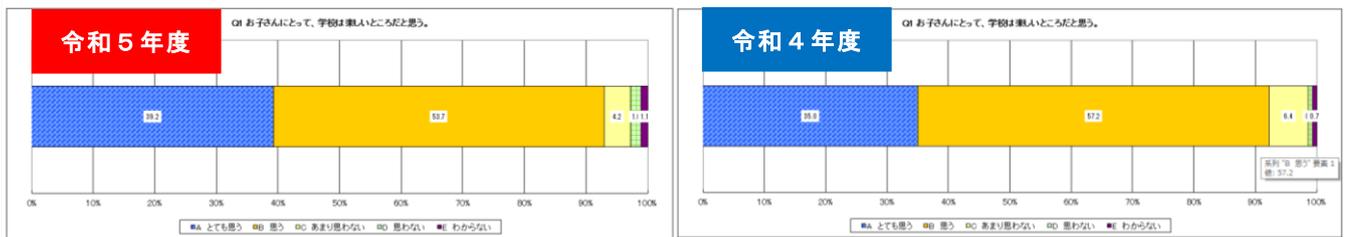
「学校は楽しいですか」の肯定的意見が約92.3%となり、多くの児童が学校生活に満足する状況である。全体的によい傾向ではあるが、昨年度に比べると3%程否定的意見が増えている結果になっている。日常的に児童と関わる中での見取りやQ-U調査、児童理解の情報交換等により、気になる児童についての共通理解を教職員間でとりながら、継続的に対応しているところだ

あるが、不登校児童への対応も含めて、今後もきめ細かな指導を行っていくことが必要である。



### (3) 保護者アンケートについて

「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見は約 93%であった。昨年までと同様、学校に対して好意的な評価である。



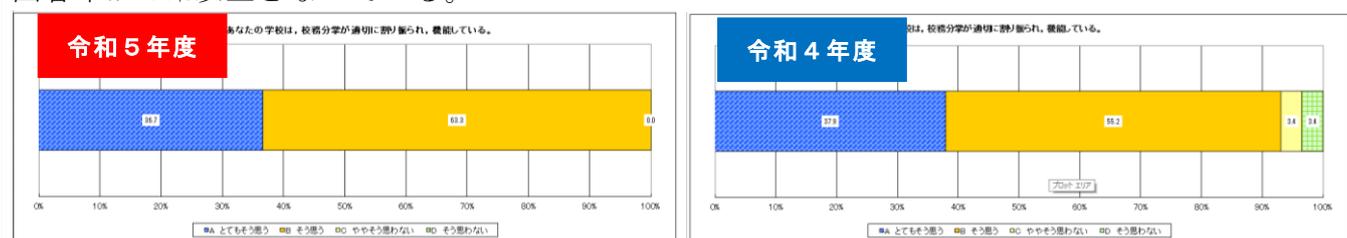
## 2 観点毎の評価結果（達成状況・改善策）

### I 学校教育目標・学校経営について

#### (1) 達成状況について

I 学校教育目標・学校経営について	令和5年度				令和4年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
I-1 あなたは、学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている。	43.3	56.7	0.0	0.0	58.6	41.4	0.0	0.0
I-2 あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。	73.3	26.7	0.0	0.0	82.8	17.2	0.0	0.0
I-3 あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。	43.3	56.7	0.0	0.0	55.2	44.8	0.0	0.0
I-4 あなたは、PDCAサイクルを生かした、教育活動を行っている。	41.4	58.6	0.0	0.0	48.3	51.7	0.0	0.0
I-5 あなたの学校は、校務分掌が適切に割り振られ、機能している。	36.7	63.3	0.0	0.0	37.9	55.2	3.4	3.4

学校教育目標や学校経営については全体的に肯定的な意見が多く、昨年度に引き続きほとんどの教職員が、学校教育目標を踏まえた学校経営がなされ、一定の成果を得ていると実感していると考えられる。一方で、I-5の「校務分掌」に対する設問については、「B：そう思う」の回答率が60%以上となっている。



## (2) 改善策について

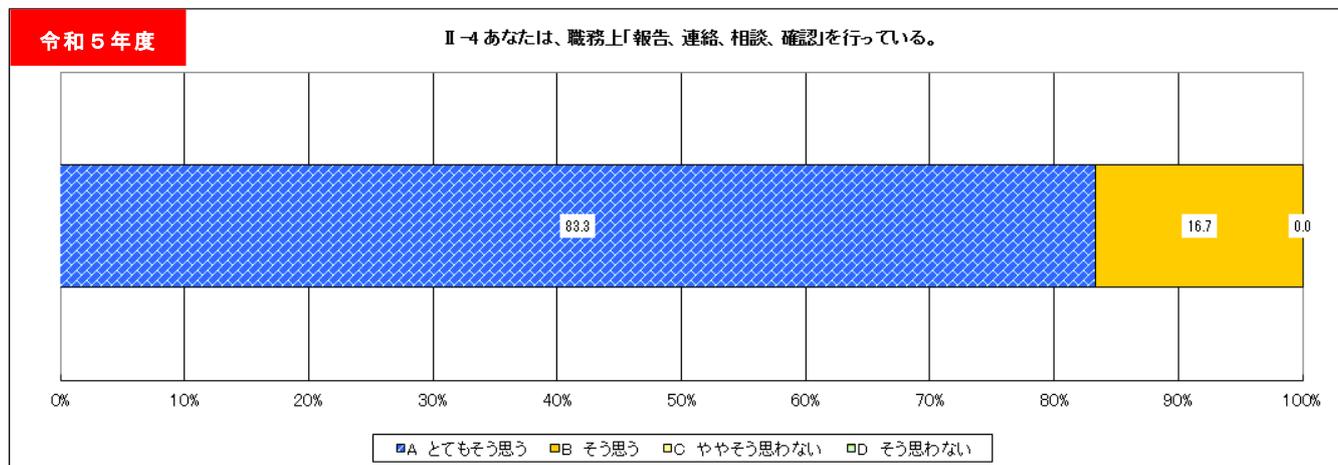
- ① 責任の重い仕事については複数人で担当させたり、適材適所に人材を配置したりするなどし、より組織的に職務にあたることができるよう校務分掌の割り振りをする。できるだけ仕事量に偏りのないようにするとともに、ベテラン教師と若手教師をバランスよく配置してOJTを通しての教職員の資質・能力の向上を図る。

## II 学校運営について

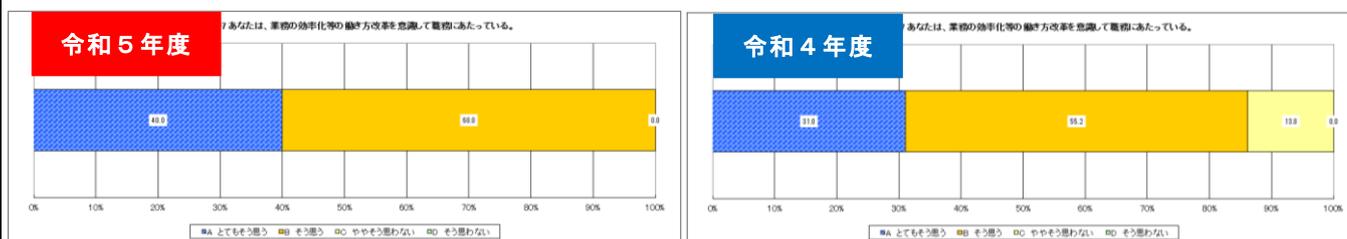
### (1) 達成状況について

II 学校運営について	令和5年度				令和4年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
II-1 あなたは、危機管理マニュアル（防犯、防災、事件、事故等）を理解している。	43.3	53.3	3.3	0.0	58.6	37.9	3.4	0.0
II-2 あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。	73.3	26.7	0.0	0.0	75.9	24.1	0.0	0.0
II-3 あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。	70.0	30.0	0.0	0.0	79.3	17.2	3.4	0.0
II-4 あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。	83.3	16.7	0.0	0.0	79.3	20.7	0.0	0.0
II-5 あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。	41.4	55.2	3.4	0.0	51.9	48.1	0.0	0.0
II-6 あなたは、校務支援システムを十分活用できている。	40.0	56.7	3.3	0.0	37.0	59.3	3.7	0.0
II-7 あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。	40.0	60.0	0.0	0.0	31.0	55.2	13.8	0.0
II-8 あなたの学校は、特別支援体制が整い、機能的に活用されている。	46.7	50.0	0.0	3.3	41.4	48.3	6.9	3.4

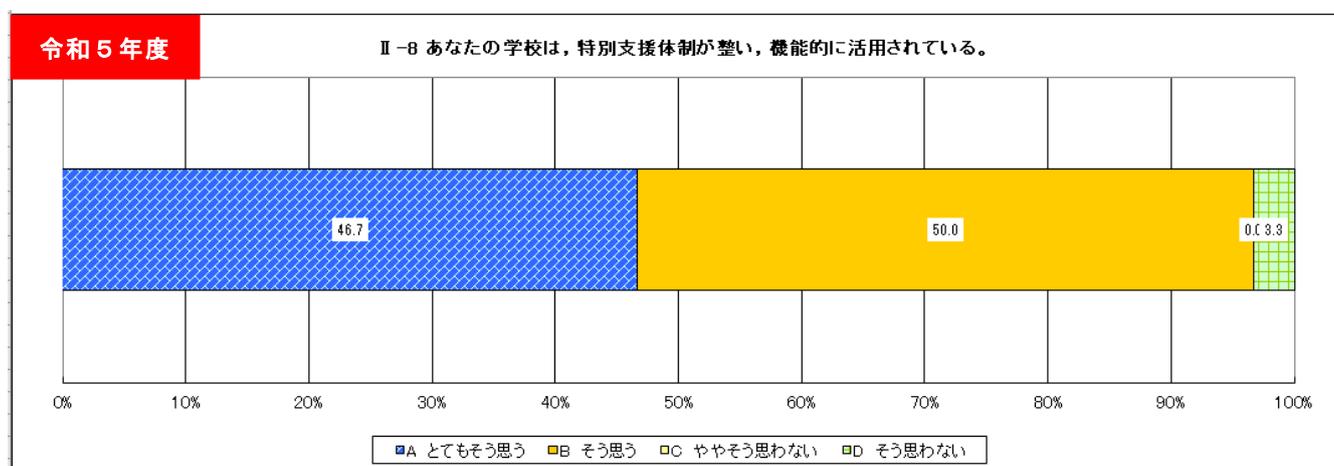
全体的に良好な結果が示されており、多くの教職員が主体的に学校運営に関わっている学校組織であると言える。特にII-4「報告、連絡、相談、確認」を問う設問の「肯定的評価」の割合は高い。このことは、本校の教職員がお互いに共通意識を持って職務にあたっており、組織として教育活動に取り組んでいることを示している。



また、Ⅱ－7の「働き方改革への意識」についての設問では、昨年度「C：ややそう思わない」との回答が13.8%だったのに対し、今年度は全員が「肯定的評価」となっており、業務の効率化についての教職員の意識の向上がみられている。月2回の定時退勤日の設定等の様々な職員の意識改革への取組の成果が現れているものと思われる。



一方、Ⅱ－8「特別支援体制」については、全体的には「肯定的評価」となっているものの、1名ではあるが「D：そう思わない」との評価があった。



## (2) 改善策について

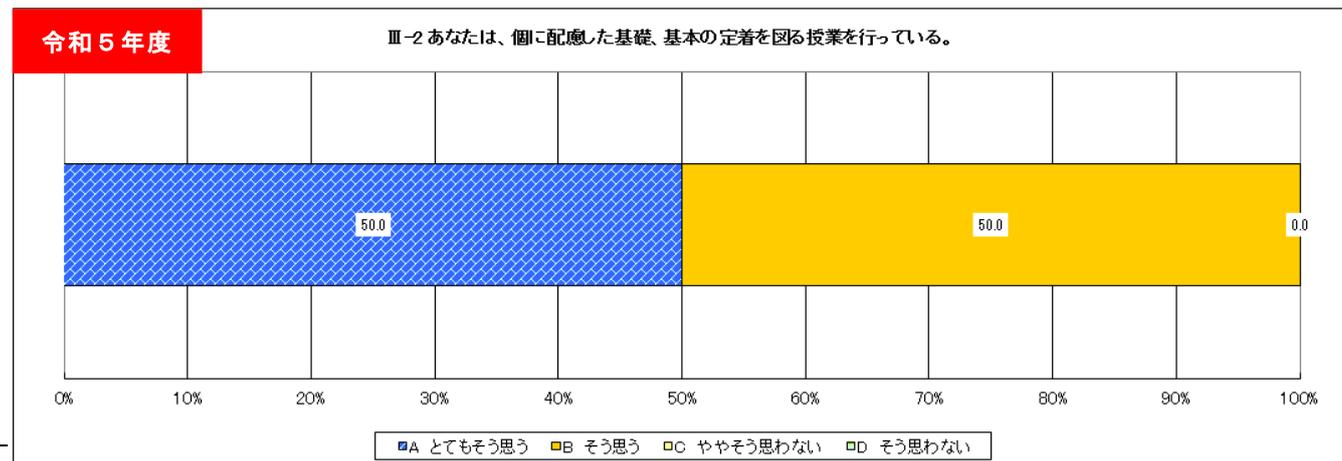
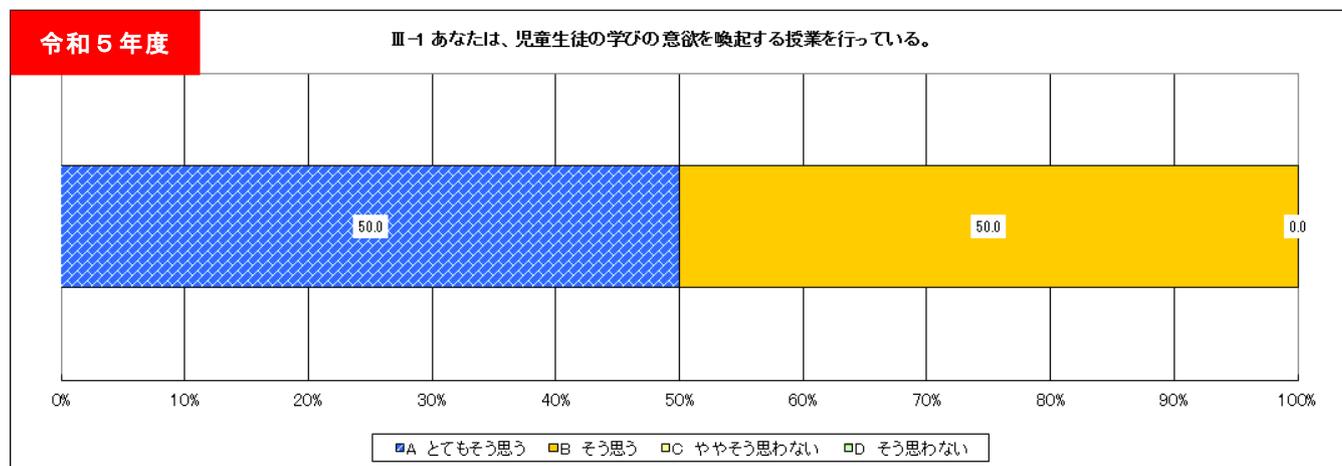
- ① 校務支援システムについては採用されて4年経過するところであるが、まだまだその利点を十分に活用できているとは言えない。しかしながら学校スケジュールや掲示板、旅行命令簿等の使用頻度は着実に増えてきている。引き続き活用していくことでその利便性は生かされてくるものと考えられる。
- ② 現在全教職員で毎月2回以上は「定時退勤日」を設け、その日は定時に退勤する取り組みを行ってきている。今後も自分で仕事の見通しを持ちながらスケジュールを立て、効率よく仕事を行うよう呼びかけを続けることで、さらに教職員の意識改革を行っていく。また、学校行事の見直しや教材教具の引き継ぎ、適切な校務分掌の組織等、管理職を中心とした多忙化解消への取り組みを推進していく。
- ③ 校内研究会等を利用しての特別支援教育に関する研修を行うなど、全教職員の資質・能力の向上を図る。また、校内支援委員会を定期的に関き、全教職員で共通理解を持ちながら特別な支援を要する児童の指導にあたっていく。さらに、支援員等を効果的に配置して十分な体制で特別支援教育が行えるようにしていく。

### Ⅲ 学習指導について

#### (1) 達成状況について

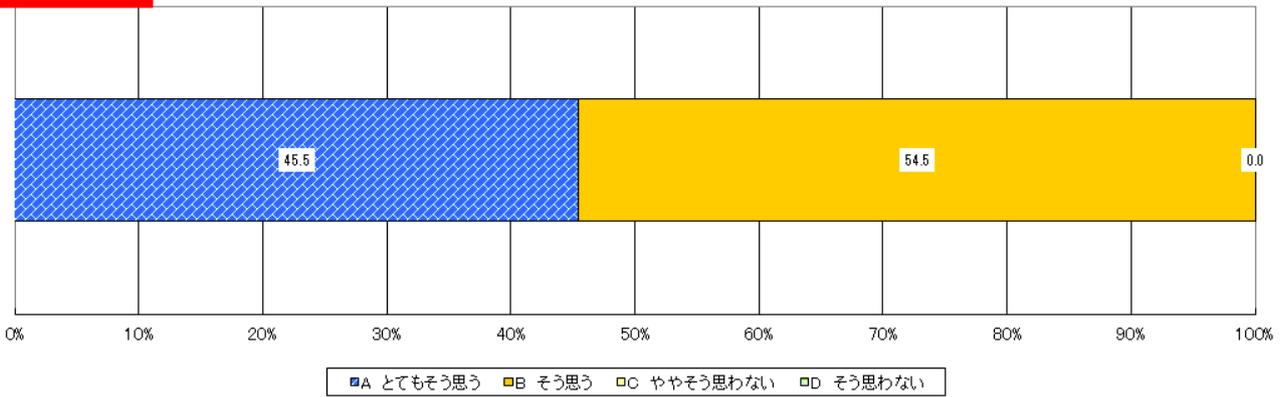
Ⅲ 学習指導について	令和5年度				令和4年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
質問内容	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
Ⅲ-1 あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。	50.0	50.0	0.0	0.0	42.9	57.1	0.0	0.0
Ⅲ-2 あなたは、個に配慮した基礎、基本の定着を図る授業を行っている。	50.0	50.0	0.0	0.0	61.9	38.1	0.0	0.0
Ⅲ-3 あなたは、指導と評価の一体化に努めた授業を行っている。	45.5	54.5	0.0	0.0	38.1	57.1	4.8	0.0
Ⅲ-4 あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。	45.5	40.9	13.6	0.0	42.9	57.1	0.0	0.0
Ⅲ-5 あなたは、協働的な学びを取り入れた授業を行っている。	40.9	59.1	0.0	0.0	38.1	61.9	0.0	0.0
Ⅲ-6 あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。	66.7	33.3	0.0	0.0	63.2	31.6	5.3	0.0
Ⅲ-7 あなたは、「やまなしスタンダード」を意識した授業を行っている。	59.1	40.9	0.0	0.0	57.1	38.1	4.8	0.0

7項目中6つの設問において「肯定的評価」が100%となっている。また、学習指導や授業づくりについてのほとんどの項目で昨年度からの底上げも見て取ることができる。校内研究会等の組織的な研修への取り組みや、教職員個人での教材研究や教育技術の習得など、日々の実践が結果として表れているものと言える。



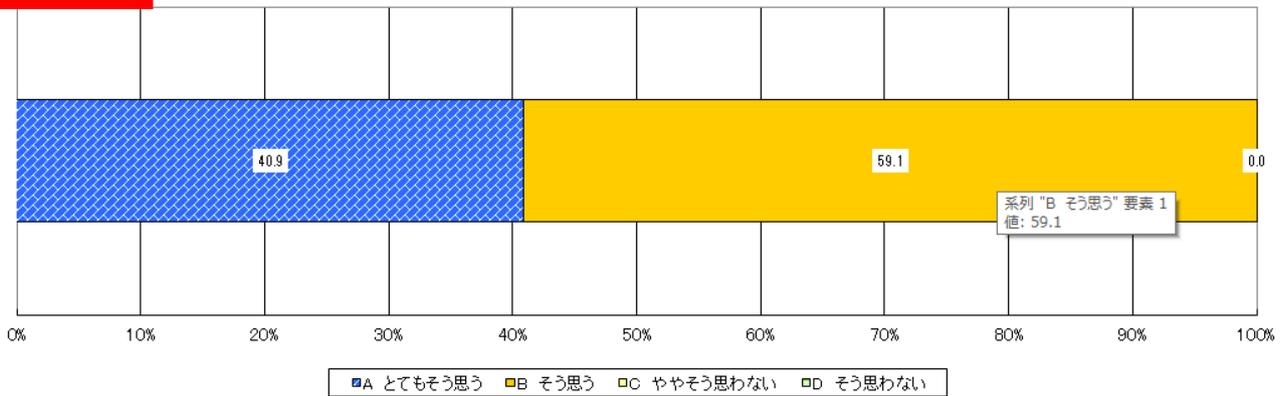
令和5年度

Ⅲ-3 あなたは、指導と評価の一体化に努めた授業を行っている。



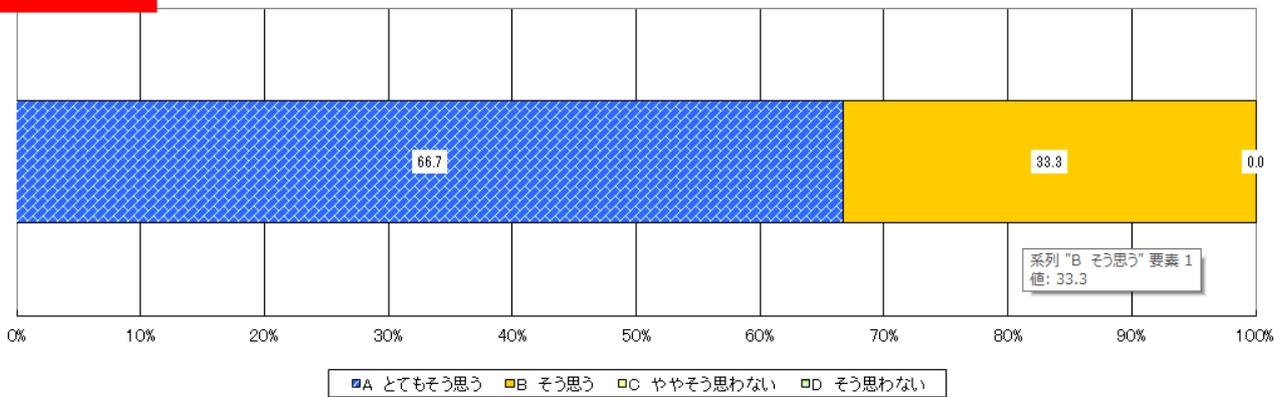
令和5年度

Ⅲ-5 あなたは、協動的な学びを取り入れた授業を行っている。



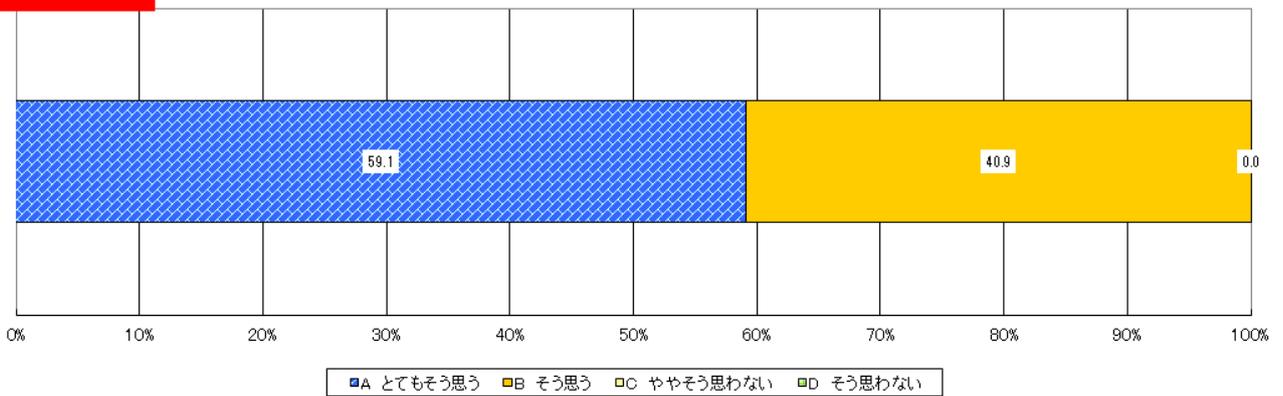
令和5年度

Ⅲ-6 あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。

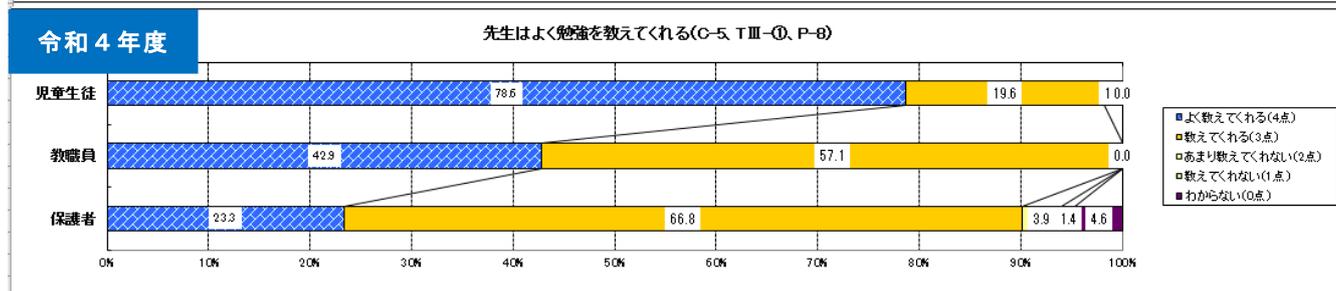
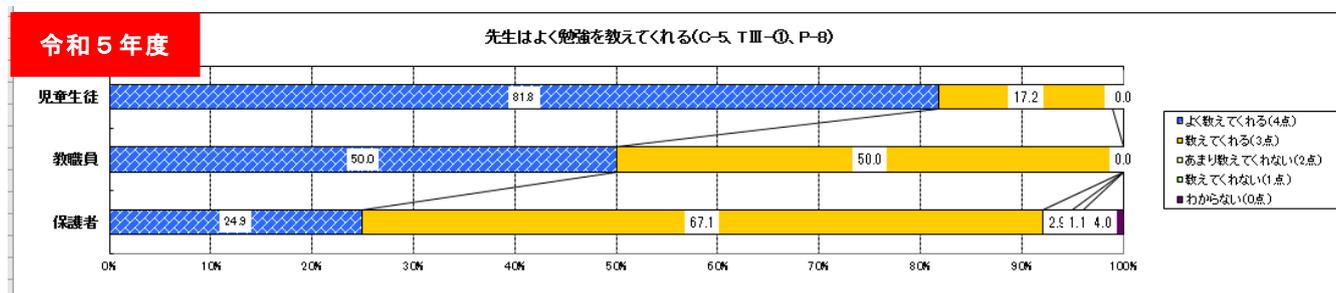


令和5年度

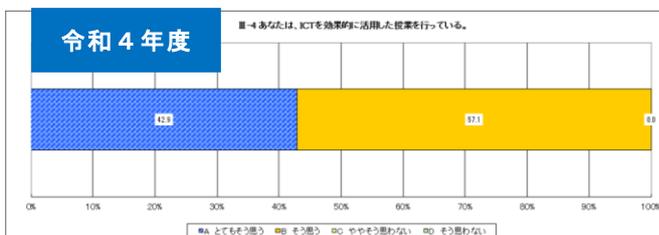
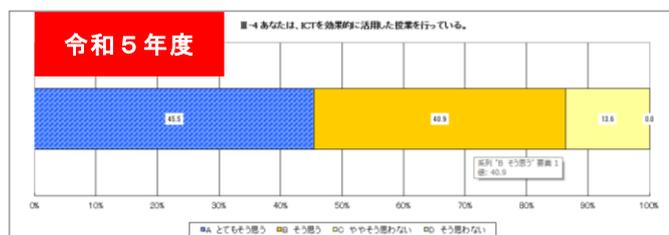
Ⅲ-7 あなたは、「やまなしスタンダード」を意識した授業を行っている。



また、授業についてのわかりやすさを問う設問でも、約 99%の児童が「先生はよく勉強を教えてくれる」「教えてくれる」を回答しており、昨年同様に学校における毎日の授業が充実し、児童が満足している様子が見受けられる。また、保護者アンケートでも同様に、高い評価を得ている。



しかしながら、Ⅲ-4の「ICTの活用」についての設問では、昨年度に比べ「A：とても思う」の評価が伸びている一方、「C：ややそう思わない」の評価をした教職員が3名いる。一人一台端末の様々な活用方法が研究開発され、大部分の教職員が有効に授業に取り入れている一方、ICTを不得手と捉えている教職員も一定数おり、二極化していることを示している。



## (2) 改善策について

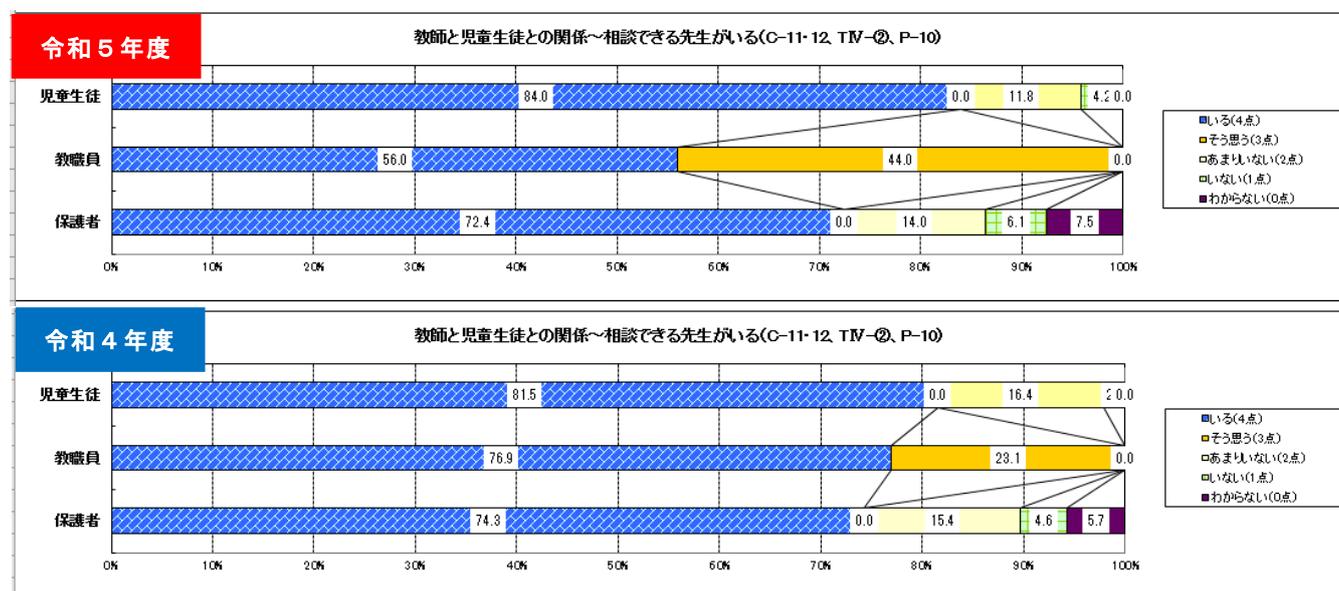
- ① 全員の教職員が自信を持ってICTの活用を進めていくためには、組織的な取組が必要である。ICT教育推進教師を中心に、校内研究会やさまざまな研修、OJTを生かしながら、教職員一人一人のICTにおける資質・能力の向上を図っていきたい。
- ② 本校の強みである、教職員同士の連携や協働体制を今後も強く押し進め、教職員集団がチームとなることで、全教職員が自信を持って教育活動が取り組めるよう校長を中心とした組織作りを行っていく。

## IV 生徒指導について

### (1) 達成状況について

IV 生徒指導について	令和5年度				令和4年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
IV-1 あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。	56.5	43.5	0.0	0.0	65.0	35.0	0.0	0.0
IV-2 あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。(対：児童生徒)	56.0	44.0	0.0	0.0	76.9	23.1	0.0	0.0
IV-3 あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。	56.0	44.0	0.0	0.0	56.0	44.0	0.0	0.0
IV-4 あなたは、キャリア教育(キャリア・パスポートの活用・進路指導など)を児童生徒の実態に応じて行っている。	47.6	47.6	4.8	0.0	33.3	61.9	4.8	0.0
IV-5 あなたは、いじめ、不登校等の早期発見・早期対応ができています。	41.7	54.2	4.2	0.0	48.0	48.0	4.0	0.0
IV-6 あなたは、児童が意欲的にあいさつをするよう指導を行っている。	54.2	45.8	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0

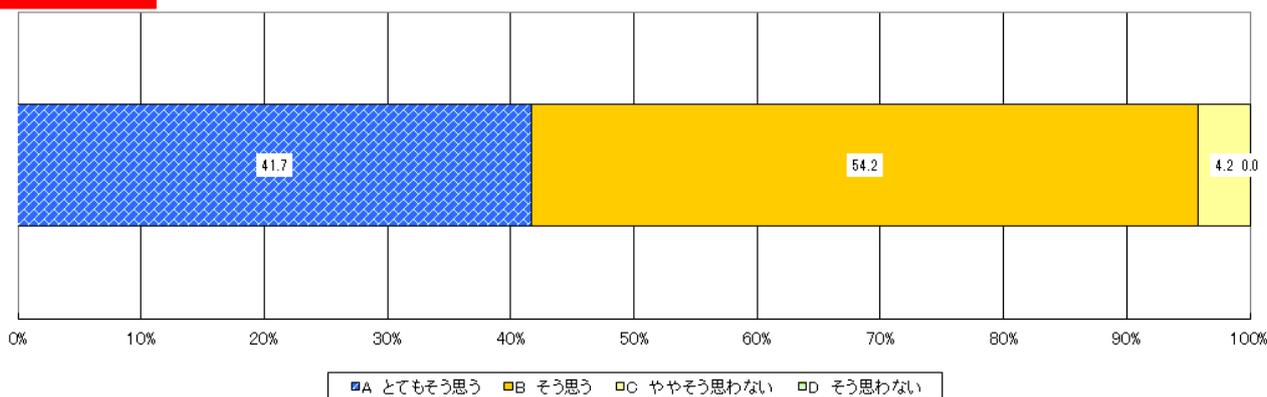
生徒指導についての達成状況についても、全ての項目において「肯定的評価」が95%以上となっており、大変高い値を示していると言える。本校の教職員が児童に寄り添い、深い児童理解の上で教育活動を行おうとする意欲がよく表れていると言える。その成果は児童や保護者の意識にも表れており、学校に「相談できる先生がいる」という設問に対しても、よい結果を得ている。



一方、IV-5「いじめ・不登校等の早期発見・早期対応」については「A：とてもそう思う」の回答率が41.7%（10名）と比較的低い値を示している。いじめや不登校等の早期発見・早期対応については、教職員にとってははっきりとした成果や結果が得られづらい内容でもあり、自信を持って回答しにくいものであると考えられる。しかしながら、いじめや不登校等の早期発見・早期対応は今日の学校教育の喫緊の課題である。今後全教職員が自信を持って取り組んでいると回答できるようにしていかなければならない。

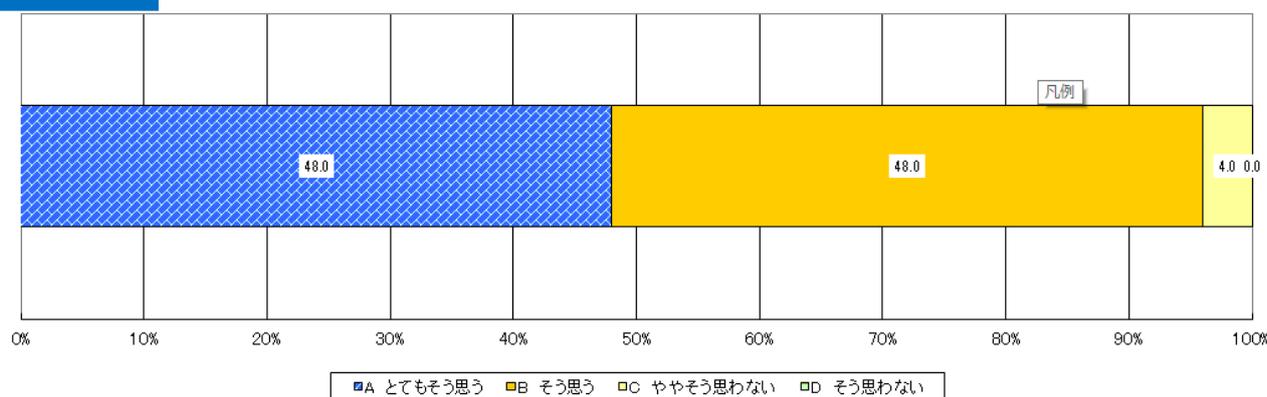
令和5年度

IV-5 あなたは、いじめ、不登校等の早期発見・早期対応ができている。



令和4年度

IV-5 あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができている



## (2) 改善策について

- いじめ・不登校等については、教職員や保護者等による早期発見と早期対応が何より重要である。できるだけ素早い対応ができるよう、日頃からの学級経営の充実を図ったり、児童や保護者、地域住民とのコミュニケーションを深めたりしていく。また、学年主任を中心に学年間の連携を密にとり、多くの目で児童の観察を行えるような体制をつくっていく。さらに、いじめ・不登校等に対する組織的な対応ができるよう、生徒指導主任を中心にした校内委員会や職員会議等を通して、全教職員の共通理解を図り、全教職員で統一された意識を持ちながら児童の支援や指導にあたっていく。

## V 地域との連携について

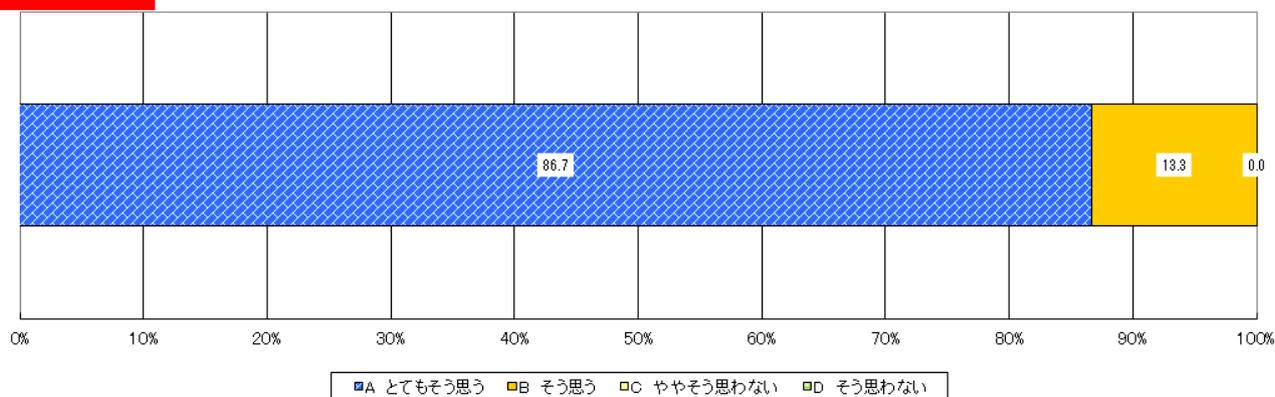
### (1) 達成状況について

V 地域との連携について	令和5年度				令和4年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
質問内容	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
V-1 あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。	44.8	44.8	10.3	0.0	55.6	40.7	3.7	0.0
V-2 あなたの学校は、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	60.0	40.0	0.0	0.0	62.1	37.9	0.0	0.0
V-3 あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。	70.0	26.7	3.3	0.0	75.9	24.1	0.0	0.0
V-4 あなたは、PTA活動に積極的に参加している。	37.9	62.1	0.0	0.0	57.1	39.3	3.6	0.0
V-5 あなたの学校は、地域・保護者と連携し、児童生徒の安全確保に努めている。	70.0	30.0	0.0	0.0	75.9	24.1	0.0	0.0
V-6 コミュニティスクールは、子供達の豊かな学びを実現する上で有益な仕組みとなっている。	86.7	13.3	0.0	0.0	82.8	13.8	3.4	0.0

地域との連携については、6項目中5つの設問で「肯定的評価」が95%以上となっており、大変よい結果が示されたと言える。本校はコミュニティスクールであり、学校運営協議会を中心に学校応援団が組織され、地域住民も巻き込みながら児童の学びを支えていただいている。農作物の栽培の学習や図画工作の彫刻刀の使い方、体育の体の使い方の学習など、毎日のように地域の人材が学校を訪れ、講師や学習の手伝いをしていただいていることで、児童は安心して学習に取り組んでいる。また、高い専門性を持っている地域の方の話を聞くことは、教職員の資質・能力の向上にもつながっている。そのような中、V-6「コミュニティスクールは有益である」は「A：とてもそう思う」が約86.7%（26名）、また「肯定的評価」は100%であり、小学生用アンケートの「地域の方が教えてくれる授業はためになっていますか」との設問でも、100%の児童が肯定的な回答をしている。これまでの本校の取組の成果が現れている。

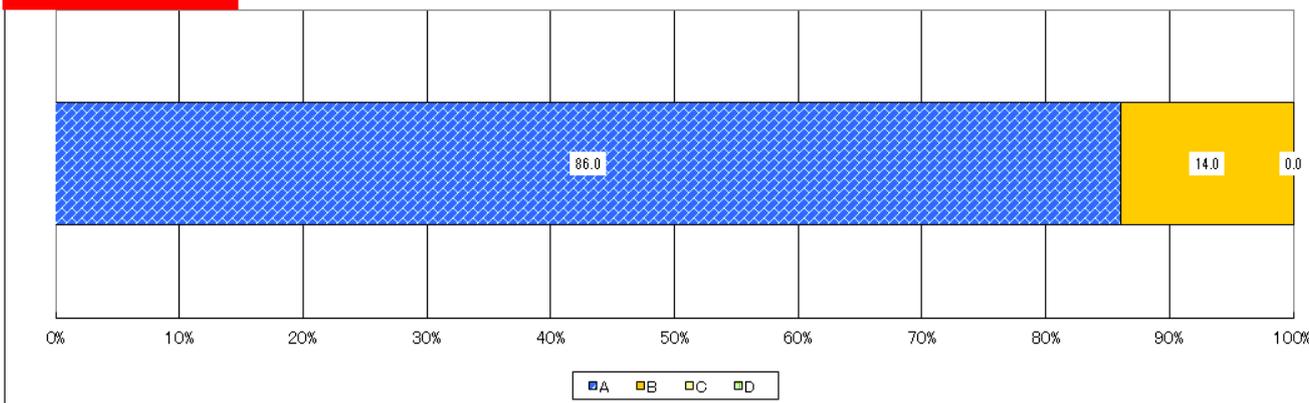
#### 令和5年度

V-6 コミュニティスクールは、子供達の豊かな学びを実現する上で有益な仕組みとなっている。



令和5年度児童

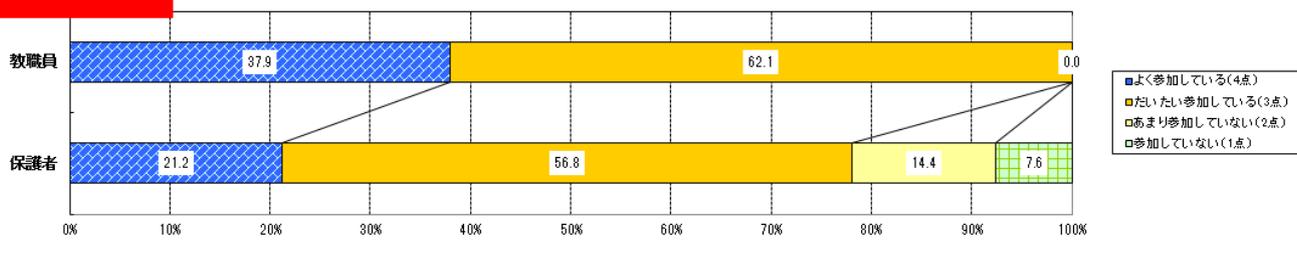
Q27 地域の人が教えてくれる授業はためになっていますか。



保護者のPTA活動への参加の意識については、昨年度に比べ高まってきており、「肯定的評価」が約72%から78%へと上昇している。昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類になったことを受け、徐々にではあるがPTA活動が活発に行われるようになってきており、それとともに保護者のPTA活動への意識が高まってきているものと考えられる。また、教職員の「肯定的評価」の回答率も100%となっている。

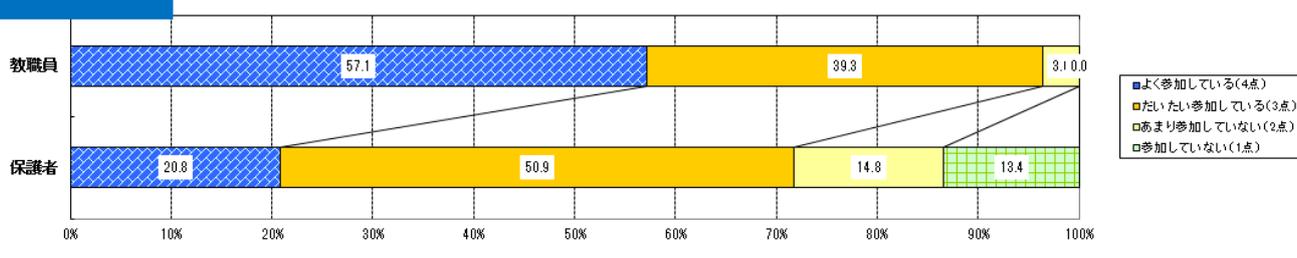
令和5年度

PTA活動に参加(TV-Q、P-11)



令和4年度

PTA活動に参加(TV-Q、P-11)



V-1「地域の教育力を生かす指導」についての設問に、「C：ややそう思わない」と回答した教職員が3名いる。本校はコミュニティスクールであり、地域の学校応援団の皆様が多数学習ボランティアとして授業に入り、児童に対して様々な支援をいただいている。それらの地域の教育力を十分に生かしていると考える教職員も多にいる（「肯定的評価」89.6%）一方、自身の授業の中で自信を持って「生かしている」と言いきれない教職員がいることを示している。しかしながら前述の教職員自己評価V-6や小学生用アンケートQ27にあるように、その成果は十分にあがっており、学校の仕組みとしての「地域の教育力を生かす指導」は充実していると考えられることができる。

## (2) 改善策について

- ① 概ね良好な結果が示されている現状があるので、引き続き学校運営協議会を中心としながら、地域みなさんとともに学ぶことができる、社会に開かれた学校を目指しながら学校運営を行っていく。
- ② 地域の講師の方とCSコーディネーターや教職員との連絡・調整をさらに密にとり、それぞれが共通理解を持つ中で学習計画を立て、効率的で効果的な学習内容を構築していく。
- ③ 社会の状況や学校行事等を鑑みながら、保護者や教職員の負担をできるだけ削減し、今後も参加しやすいPTA活動を行うよう検討していく。
- ④ 校内研究会等を活用し、引き続きより有効的な「地域の教育力を生かす指導」について組織的に研究を進め、より目的意識を持った指導が行われるように教職員の資質・能力の向上を図る。

## VI 学校の特色について

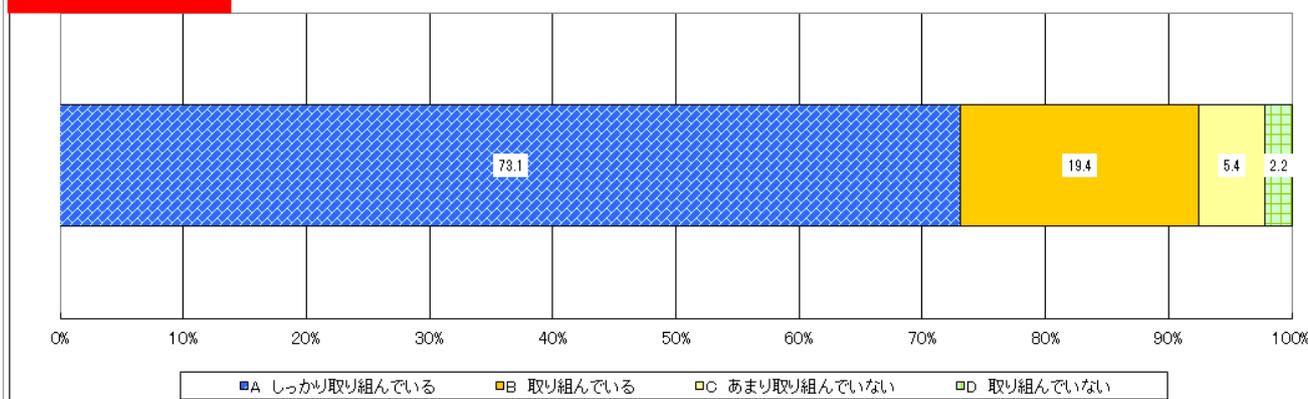
### (1) 達成状況について

VI 学校の特色に関して	令和5年度				令和4年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
VI-1 あなたは、児童が積極的に読書活動に取り組むよう指導を行っている。	46.4	50.0	3.6	0.0	60.7	35.7	3.6	0.0
VI-2 あなたは、児童が進んで児童会活動に取り組むよう指導を行っている。	48.3	48.3	3.4	0.0	59.3	40.7	0.0	0.0

学校の特色に関しても概ね良好な結果が得られている。「みんなの個性で花火のような明るい笑顔をさかせよう」のテーマのもと、児童会本部や委員会活動を中心により良い学校を目指して児童とともに活動してきている。小学生用アンケートの「委員会活動にしっかり取り組んでいますか」の設問では、92.5%の児童が肯定的な評価をしており、本校の委員会活動に対する児童の意欲の高さがうかがえる。これは教師の継続的な指導の結果である。

#### 令和5年度児童

Q14 委員会活動にしっかり取り組んでいますか。



## (2) 改善策について

- 学校の特色については、校長の指導の下、全教職員で共通認識をとりながら進めてきている。来年度以降も全教職員一丸となって取り組んでいく。

## Ⅶ 創甲斐教育について

### (1) 達成状況について

Ⅶ 創甲斐教育について	令和5年度				令和4年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
質問内容	とともそう思う 回答率%	そう思う 回答率%	ややそう思わない 回答率%	そう思わない 回答率%	とともそう思う 回答率%	そう思う 回答率%	ややそう思わない 回答率%	そう思わない 回答率%
Ⅶ-1 あなたは、児童の読解力や表現力を高める指導を行っている。	40.7	55.6	3.7	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
Ⅶ-2 あなたは、児童同士の対話力を高める指導を行っている。	46.4	50.0	3.6	0.0	46.4	53.6	0.0	0.0
Ⅶ-3 あなたは、児童の体力向上や健康指導に努めている。	39.3	57.1	3.6	0.0	46.4	53.6	0.0	0.0

全体的に高評価であり、全ての項目について「A+Bの肯定的評価」が95%以上となっている。読解力・表現力の向上、対話力の向上、体力向上や健康指導について、それぞれの教職員が工夫を凝らしながら授業を構築し、「創甲斐教育」推進のために取り組んできている様子が表れている。

### (2) 改善策について

- 「創甲斐教育」を推進するということは、毎日の授業を充実させることである。「確かな学力」を身につけさせ、「生きる力」を育むために、教職員が個々の育成指標に合った適切な目標設定を行った上で、校内研究会やさまざまな研修を行うのと同時に、OJTを生かしながら全教職員の資質・能力の向上を図っていきたい。

### 3 まとめ（成果と課題）

I 学校教育目標・学校経営について	
成 果	課 題
○学校教育目標をもとにした学校・学年経営	○機能的な校務分掌の働き
II 学校運営について	
成 果	課 題
○職務上の「報告、連絡、相談、確認」 ○個人情報保護の管理 ○教職員同士の協働体制 ○働き方改革への意識	○特別支援体制の機能的な活用
III 学習指導について	
成 果	課 題
○児童の学びの意欲を喚起する授業づくり ○基礎基本の定着を図る授業づくり ○家庭学習に対する指導 ○「やまなしスタンダード」への意識	○ICTを効果的に活用した授業づくり
IV 生徒指導について	
成 果	課 題
○民主的で規律ある集団づくり ○「学校には相談できる先生がいる」などの保護者・児童からの信頼感	○いじめ・不登校等の早期発見・早期対応
V 地域との連携について	
成 果	課 題
○コミュニティスクールの活用 ○教職員・保護者のPTA活動への意識	○さらなる地域の教育力を生かす指導
VI 学校の特色について	
成 果	課 題
○児童会活動への積極的な取組	
VII 創甲斐教育について	
成 果	課 題
○読解力や表現力を高める指導 ○対話力を高める指導 ○体力向上や健康指導	